

平成 29 年 度

小学校教員資格認定試験
教職に関する科目 (Ⅱ)

体 育

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 29 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊗ ⊘ ⊕ ⊙

問 1 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、体育科の目標として「体力の向上」が示されている。この「体力の向上」の解説に示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 発達の段階に応じて高める体力
- イ 学習したことを家庭などで生かす
- ウ 自己の体力や体の状態に応じた高め方
- エ 児童の心身の発達の特性の把握

問 2 「小学校学習指導要領」(平成 20 年文部科学省告示第 27 号)「第 2 章 第 9 節 体育 第 2 各学年の目標及び内容」において、第 3 学年及び第 4 学年の目標に示されているものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた基本的な技能を身に付け、体力を高める。
- イ だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して意欲的に運動をする態度を育てる。
- ウ 活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きや技能を身に付け、体力を養う。
- エ 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

問 3 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 1 学年及び第 2 学年の「A 体づくり運動」領域の「イ 多様な動きをつくる運動遊び」の「ア 体のバランスをとる運動遊び」に例示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 座る、立つなどの動きで構成される運動遊び
- イ 回るなどの動きで構成される運動遊び
- ウ 渡るなどの動きで構成される運動遊び
- エ 寝ころぶ、起きるなどの動きで構成される運動遊び

問 4 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 5 学年及び第 6 学年の「B 器械運動」領域の「イ 鉄棒運動」の「支持回転技の例示」に示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 後方片膝掛け回転
- イ 安定したかかえ込み回り
- ウ 前方片膝掛け回転
- エ 安定した後方片膝掛け回転

問 5 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 1 学年及び第 2 学年の「F 表現リズム遊び」領域の「イ リズム遊び」の「リズムと動きの例示」に示されているものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア リズムに乗って、弾む、回る、ねじる、スキップするなどの動きを繰り返して即興的に踊ること。
- イ リズムに乗って、弾む、跳ねる、ひねる、スキップするなどの動きを繰り返して楽しく踊ること。
- ウ リズムに乗って、弾む、転がる、ねじる、スキップするなどの動きを繰り返して楽しく踊ること。
- エ リズムに乗って、弾む、回る、ひねる、スキップするなどの動きを繰り返して軽快に踊ること。

問 6 「小学校学習指導要領」(平成 20 年文部科学省告示第 27 号)「第 2 章 第 9 節 体育 第 2 各学年の目標及び内容」において、第 3 学年及び第 4 学年の「2 内容」の「C 走・跳の運動」に示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 高跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと。
- イ かけっこ・リレーでは、調子よく走ること。
- ウ 幅跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと。
- エ 小型ハードル走では、小型ハードルをリズムカルに走り越えること。

問 7 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 1 学年及び第 2 学年の「D 水遊び」領域の「(2) 態度」について示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 水に慣れる遊びや浮く・もぐる遊びに進んで取り組むこと。
- イ 運動の順番を守り、友達と仲よく運動すること。
- ウ 補助具の準備や片付けは自分一人で行うこと。
- エ プールサイドは走らないなどの水遊びの心得を守ること。

問 8 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 5 学年及び第 6 学年の「E ボール運動」領域の「(1) 技能」の「ウ ベースボール型」の「[例示]」に示されているものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 止まったボールや易しく投げられたボールをバットで打ったり足で蹴ったりすること。
- イ 打球方向に移動し、捕球すること。
- ウ 捕球する相手に向かって、アンダーハンドで投げること。
- エ 塁間を守備の状況に応じて走塁すること。

問 9 次の文は、『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 3 学年及び第 4 学年の「G 保健」領域の「(2) 育ちゆく体とわたし」の「ウ 体をよりよく発育・発達させるための生活」の内容について述べたものである。空欄の〔 A 〕と〔 B 〕に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

食事については、特に、体をつくるもとになるたん白質、不足がちな〔 A 〕、不可欠な〔 B 〕などを摂取する必要があることについて触れるようにする。

〔解答群〕

- | | |
|---------|-------|
| 〔 A 〕 | 〔 B 〕 |
| ア 鉄 | ビタミン |
| イ ビタミン | 鉄 |
| ウ カルシウム | ビタミン |
| エ ビタミン | カルシウム |

問10 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において、第5学年及び第6学年の「G 保健」領域の「(1) 心の健康」の「ウ 不安や悩みへの対処」に示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分の感情をコントロールすること
- イ 家族や先生、友達などと話すこと
- ウ 運動をしたり音楽を聴いたりすること
- エ 仲間と遊ぶこと

問11 新体力テストの50m走の記録に関して、正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 記録は1/10秒単位とし、1/10秒未満は切り上げる。
- イ 記録は1/100秒単位とし、1/100秒未満は四捨五入する。
- ウ 記録は1/10秒単位とし、1/10秒未満は四捨五入する。
- エ 記録は1/100秒単位とし、1/100秒未満は切り捨てる。

問12 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において示された「内容の取扱い」として適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 第5学年及び第6学年の「ボール運動」の「ベースボール型」については「取り扱わないことができる」のは、必要な用具をそろえることができず実施が難しい学校もあることによるものである。
- イ 「D 水遊び」(第1学年及び第2学年)、「D 浮く・泳ぐ運動」(第3学年及び第4学年)、「D 水泳」(第5学年及び第6学年)を扱わないことのできる条件としては、学校及びその近くに公営のプール等の適切な水泳場がない場合があげられる。しかし、その場合であっても、事故防止等の観点からこれらの心得については必ず取り上げることを示している。
- ウ 「フォークダンス」を取扱うことができる学年を第5学年及び第6学年に限っているのは、それより下の学年では、発達の特性から「踊り方の特徴をとらえ、基本的なステップや動きを身に付ける」ことが難しいと考えられていることによる。
- エ 第5学年及び第6学年においては、第1学年及び第2学年、第3学年及び第4学年に比べて体育に配当できる時間数が少ないことから、「A 体づくり運動」については、必ずしも2学年にわたって指導する必要はない。ただし、いずれかの学年では必ず指導することとし、その際、他の領域における指導との関係を重視するものとする。

問13 次の文章は、第5学年及び第6学年の器械運動の指導について述べたものである。適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア マット運動の「開脚前転」では、両手を着き、足を強く蹴って腰を大きく開いて回転し、脚を左右に大きく開いて接地するとともに素早く両手を着いて開脚立ちをすることを指導する。
- イ マット運動の「開脚後転」では、しゃがみ立ちの姿勢から尻を着いて後方に回転し、脚を左右に大きく開き両手でマットを押して開脚立ちをすることを指導する。
- ウ 鉄棒運動の「前方支持回転」では、支持姿勢から体を前方に勢いよく倒して回転し、上体を一気に起こし、手首を返して支持姿勢に戻ることを指導する。
- エ 鉄棒運動の「後方支持回転」では、支持姿勢から体を後方に勢いよく倒して上体を鉄棒に引き寄せて回転し、支持姿勢に戻ることを指導する。

問14 次の文章は、第5学年及び第6学年の民謡の指導について述べたものである。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア ソーラン節やエイサーなどの力強い踊りでは低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ることを指導する。
- イ 阿波踊りなどの軽快なリズムの踊りでは軽快なスキップや手振りで踊ることを指導する。
- ウ ソーラン節やエイサーなどの力強い踊りでは軽快な足取りや手振りで踊ることを指導する。
- エ 阿波踊りなどの軽快なリズムの踊りでは軽快なスキップで隊形移動しながら踊ることを指導する。

問15 次の文章は、第5学年及び第6学年の水泳の指導について述べたものである。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 平泳ぎでは、続けて速く泳ぐことを指導する。
- イ クロールでは、続けて長く泳ぐことを指導する。
- ウ 平泳ぎでは、短い距離を速く泳ぐことを指導する。
- エ クロールでは、短い距離を速く泳ぐことを指導する。

問16 次の文章は、第5学年及び第6学年の短距離走の指導について述べたものである。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア スタンディングスタートから、リズムカルに走り始めることを指導する。
- イ 上体をリラックスさせて全力で走ることを指導する。
- ウ スタンディングスタートから、リラックスして走り始めることを指導する。
- エ 上体をリラックスさせてリズムカルに走ることを指導する。

問17 次の文章は、けがの手当について述べたものである。適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

承諾を得ておらず不掲載

問18 次の文章は、思春期の体の変化について述べたものである。適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 思春期には、脳から分泌されるホルモンによって、精巣や子宮からホルモンが分泌される。
- イ 思春期には、男子はがっしりとした体つきに、女子は丸みのある体つきになる。
- ウ 思春期には、男子、女子ともに性器のまわりとわきの下に発毛が起こる。
- エ 思春期には、男子では精通が、女子では初経が起こる。

問19 小学校で扱うボール運動系の領域の内容やねらいとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 低学年の「鬼遊び」は「主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することを楽しむや喜びを味わうことができる運動」という点において他のゲームやボール運動と異質であり、それらの運動への発展性を考えることはできない。
- イ ボール運動系の技能は、攻防のためにボールを制御する技能である「ボール操作」とボール操作に至るための動きに関する技能である「ボールを持たないときの動き」で構成されている。守備にかかわる動きに関する技能は前者に含まれる。
- ウ 中学年のゲームと高学年のボール運動ではともに「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」の三つの型で内容を構成しているが、同じ型でも中学年のゲームと高学年のボール運動ではゲームの課題として共通するものはない。
- エ 中学年のゲームの領域では規則を工夫したり作戦を立てたりすることを重視しながら、簡単な動きを身に付けて、ゲームを一層楽しくしていくことが学習の中心となるが、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」の三つの型は第3学年及び第4学年のいずれかの学年で指導することもできる。

問20 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)に示される例示に基づいて教育課程を編成した場合、ボール運動系(ゲーム・ボール運動)の編成の順番として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。なお、ア～エに示される「→」の後に置かれたもの(運動)は「→」の前に置かれたものより後に編成されることを意味する。

- ア ボール運び鬼→陣地を取り合うゴール型ゲーム→タグラグビー
- イ ハンドボールを基にした易しいゲーム→バスケットボール
- ウ ソフトバレーボール→プレルボールを基にした易しいゲーム
- エ ボールを蹴って行うベースボール→止まったボールを打って行うゲーム→ソフトボール